

# フタシーリング<sup>®</sup> NF-11TF

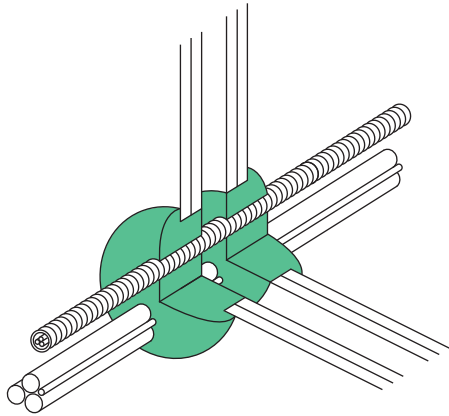
# フタシーリング<sup>®</sup> NF-12HM

## 施工マニュアル

大臣認定番号	適用構造体	開口形状	最大開口径	充填厚	ケーブルサイズ	樹脂管サイズ	最大占積率
PS060WL-0574 PS060WL-0575	中空壁	丸穴	φ110mm以下	50mm <sub>以上</sub> + 50mm <sub>以上</sub>	100mm <sup>2</sup> 以下	PF-28・CD-36 <sub>以下</sub>	40.6%以下
		鋼製電線管	φ113.4mm以下	50mm <sub>以上</sub> + 50mm <sub>以上</sub>	200mm <sup>2</sup> 以下	PF-28・CD-36 <sub>以下</sub>	33.4%以下
PS060WL-0574 PS060WL-0575	ALC壁 コンクリート壁	丸穴	φ110mm以下	50mm <sub>以上</sub> + 50mm <sub>以上</sub>	100mm <sup>2</sup> 以下	PF-28・CD-36 <sub>以下</sub>	40.6%以下
		鋼製電線管	φ113.4mm以下	50mm <sub>以上</sub> + 50mm <sub>以上</sub>	200mm <sup>2</sup> 以下	PF-28・CD-36 <sub>以下</sub>	33.4%以下
PS060WL-0583 PS060WL-0582		丸穴	φ210mm以下	100mm以上	325mm <sup>2</sup> 以下	PF-36・CD-42 <sub>以下</sub>	42.6%以下
PS060FL-0584 PS060FL-0585	ALC床 コンクリート床	丸穴	φ210mm以下	70mm以上	325mm <sup>2</sup> 以下	PF-36・CD-42 <sub>以下</sub>	42.6%以下
		鋼製電線管	φ113.4mm以下	70mm以上	200mm <sup>2</sup> 以下	PF-28・CD-36 <sub>以下</sub>	33.4%以下

開口径	充填厚	占積率	ケーブル	合成樹脂製可とう電線管
φ 110mm以下	50mm以上+50mm以上	40.6%以下	100mm <sup>2</sup> 以下 外径φ41mm以下	PF-28、CD-36以下 合計2本以下

完成図 (丸穴仕様)



■特徴

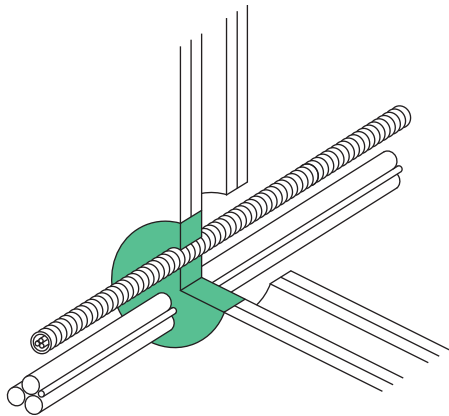
- 鋼製枠の設置は不要
- PF管およびCD管とケーブルの同時貫通が可能
- 木製下地、軽量鉄骨(LGS)下地に対応

■施工条件

- 壁の厚さは80mm以上
- 60分準耐火構造もしくは60分耐火構造に適用

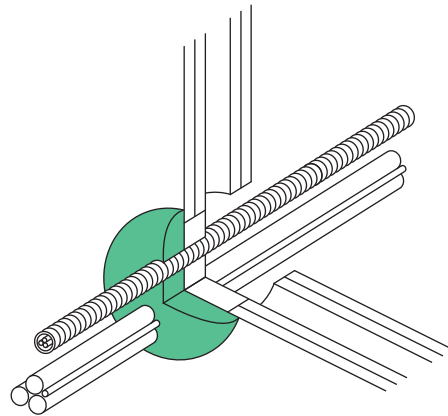
※プラシールNF-11TFを高湿度環境となるおそれのある箇所で、ご使用される際はナイコートSB-61等でコーティングを施して下さい。

1 耐火パテの充填①



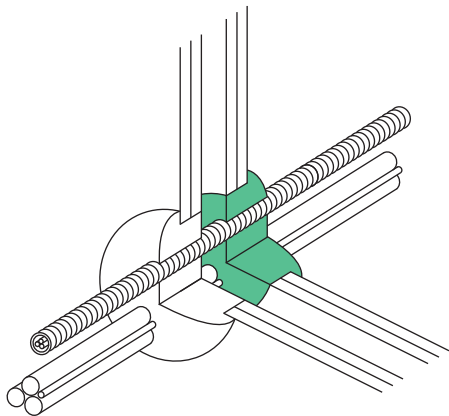
プラシールNF-11TF又は12HMをケーブル間や合成樹脂製可とう電線管周囲等に隙間が出来ないように十分に注意しながら押圧充填する。

2 耐火パテの充填②



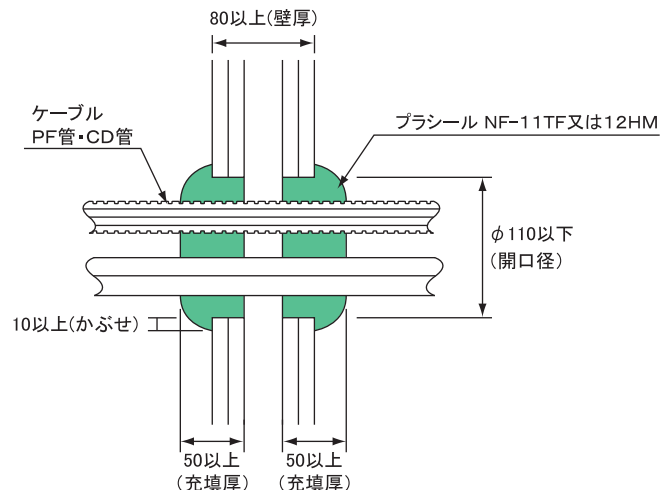
充填厚の不足や隙間がないか確認し、不備がある場合は補充する。

3 耐火パテの充填③・仕上げ



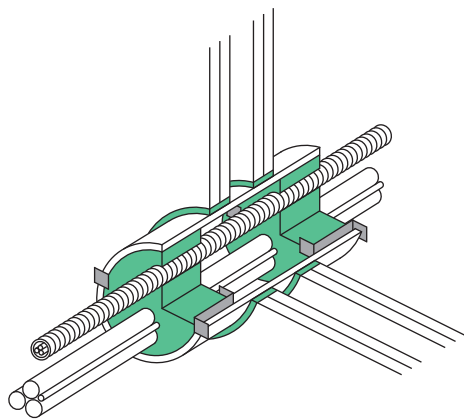
反対側も同様に施工し、仕上げる。

標準施工図



鋼製電線管外径	充填厚	占積率	ケーブル	合成樹脂製可とう電線管
φ 113.4mm以下	50mm以上+50mm以上	33.4%以下	200mm <sup>2</sup> 以下 外径φ 55mm以下	PF-28、CD-36以下 合計1本以下

### 完成図 (鋼製電線管仕様)



### ■特徴

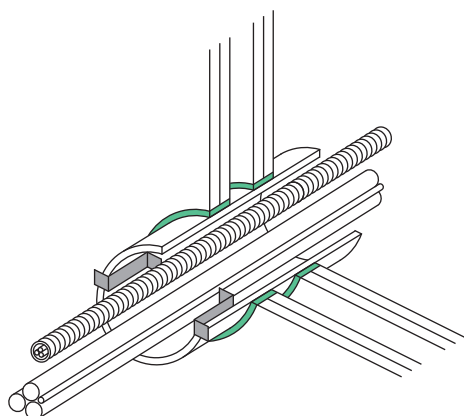
- PF管およびCD管とケーブルの同時貫通が可能
- 木製下地、軽量鉄骨(LGS)下地に対応

### ■施工条件

- 壁の厚さは80mm以上
- 60分準耐火構造もしくは60分耐火構造に適用
- 鋼製電線管は全長200mm以上
- 開口部に対する鋼製電線管の占積率は84.4%以下
- 開口部と鋼製電線管の隙間はNF-11TF(又は12HM)を充填する(片側:25mm厚)
- 充填補助金具はSP支持棒を使用

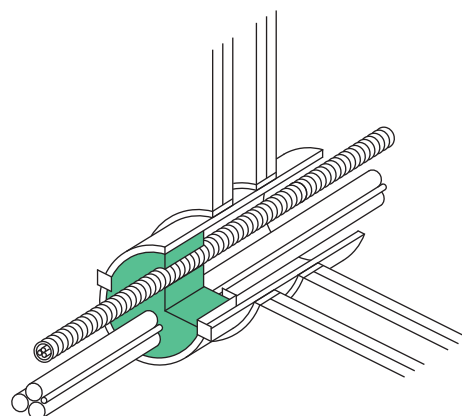
※プラシールNF-11TFを高湿度環境となるおそれのある箇所、ご使用される際はナイコートSB-61等でコーティングを施して下さい。

### 1 隙間処理および充填補助金具の設置



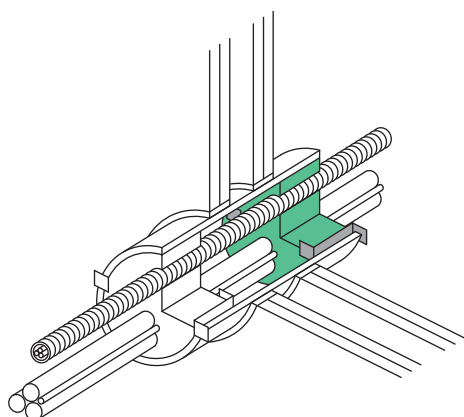
開口部と鋼製電線管の隙間にプラシールNF-11TF(又はNF-12HM)を充填する。(片側25mm)  
鋼製電線管内に充填補助金具を設置する。

### 2 耐火パテの充填①



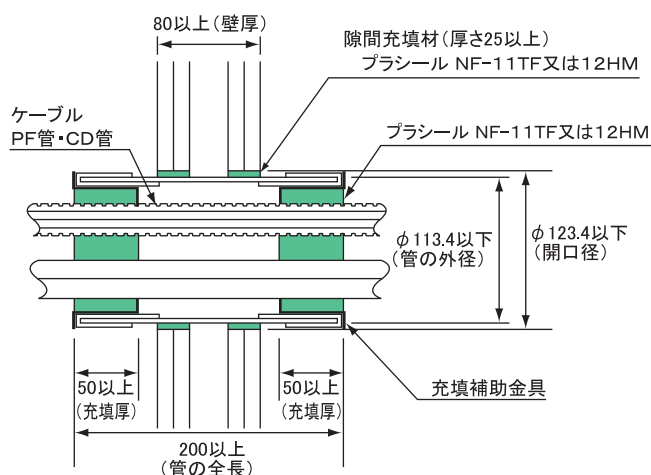
プラシールNF-11TF又は12HMをケーブル間や合成樹脂製可とう電線管周囲等に隙間が出来ないように十分に注意しながら押圧充填する。  
充填圧の不足や隙間がないか確認し、不備がある場合は補充する。

### 3 耐火パテの充填②・仕上げ



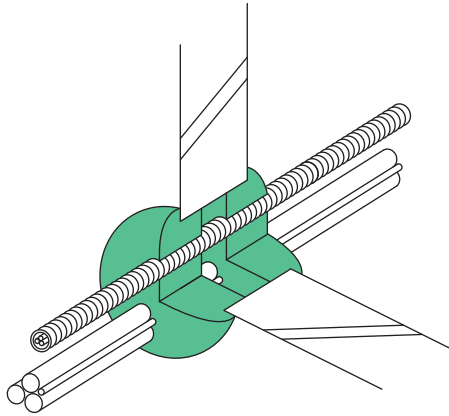
反対側も同様に施工し、仕上げる。

### 標準施工図



開口径	充填厚	占積率	ケーブル	合成樹脂製可とう電線管
φ 110mm以下	50mm以上+50mm以上	40.6%以下	100mm <sup>2</sup> 以下 外径φ41mm以下	PF-28、CD-36以下 合計2本以下

完成図 (丸穴仕様)



■特徴

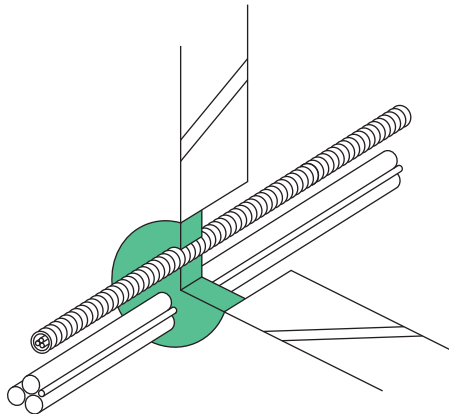
- PF管およびCD管とケーブルの同時貫通が可能

■施工条件

- 壁の厚さは80mm以上
- ALC構造もしくはコンクリート構造に適用

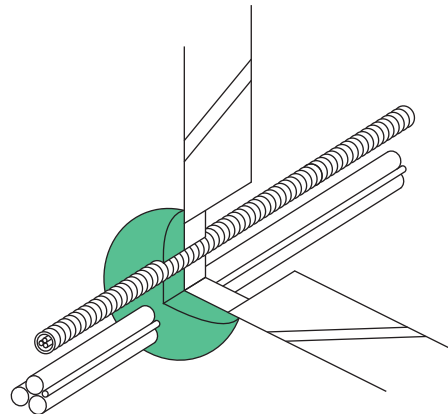
※プラシールNF-11TFを高湿度環境となるおそれのある箇所で、ご使用される際はナイコートSB-61等でコーティングを施して下さい。

1 耐火パテの充填①



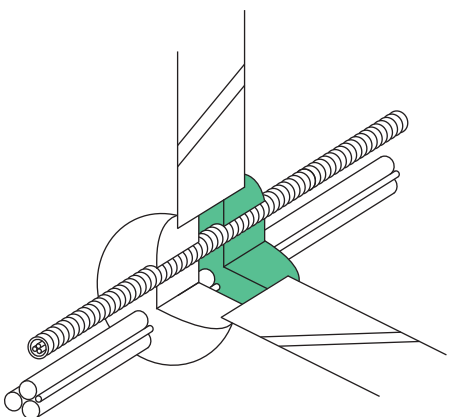
プラシールNF-11TF又は12HMをケーブル間や合成樹脂製可とう電線管周囲等に隙間が出来ないように十分に注意しながら押圧充填する。

2 耐火パテの充填②



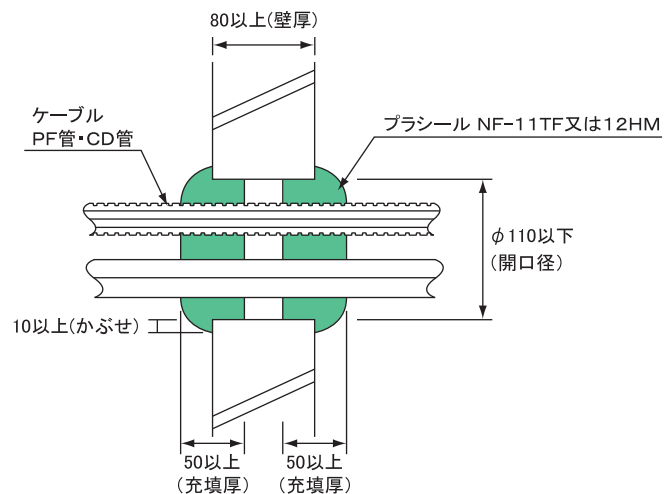
充填厚の不足や隙間がないか確認し、不備がある場合は補充する。

3 耐火パテの充填③・仕上げ



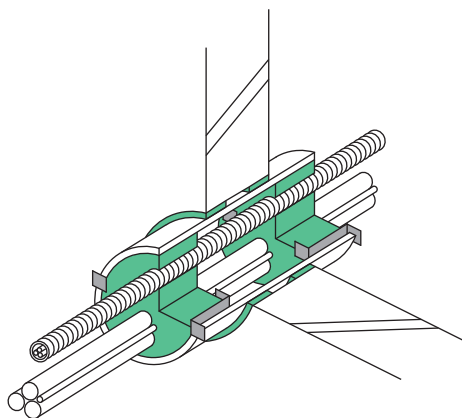
反対側も同様に施工し、仕上げる。

標準施工図



鋼製電線管外径	充填厚	占積率	ケーブル	合成樹脂製可とう電線管
φ 113.4mm以下	50mm以上+50mm以上	33.4%以下	200mm <sup>2</sup> 以下 外径φ 55mm以下	PF-28、CD-36以下 合計1本以下

完成図 (鋼製電線管仕様)



■特徴

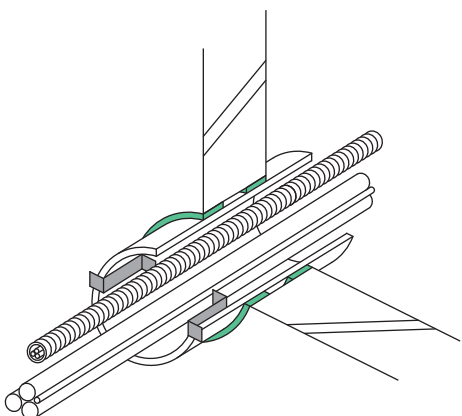
- PF管およびCD管とケーブルの同時貫通が可能

■施工条件

- 壁の厚さは80mm以上
- ALC構造もしくはコンクリート構造に適用
- 鋼製電線管は全長200mm以上
- 開口部に対する鋼製電線管の占積率は84.4%以下
- 開口部と鋼製電線管の間隙はモルタル、コンクリート、NF-11TF(又はNF-12HM)のうち、いずれか1つを充填する(片側:25mm厚)
- 充填補助金具はSP支持棒を使用

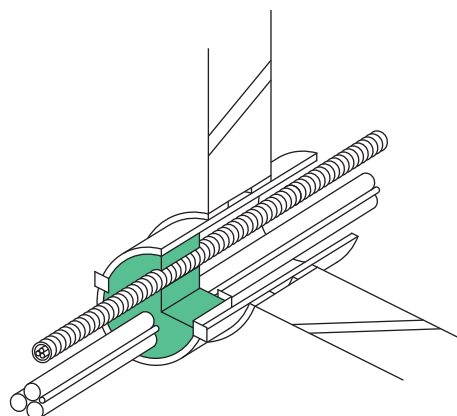
※プラシールNF-11TFを高湿度環境となるおそれのある箇所で、ご使用される際はナイコートSB-61等でコーティングを施して下さい。

1 隙間処理および充填補助金具の設置



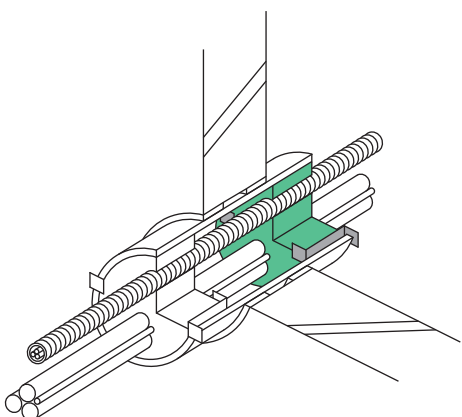
開口部と鋼製電線管の隙間にモルタル、コンクリート、プラシールNF-11TF(又はNF-12HM)のうちいずれか1つを充填する(片側25mm) 鋼製電線管内に充填補助金具を設置する。

2 耐火パテの充填①



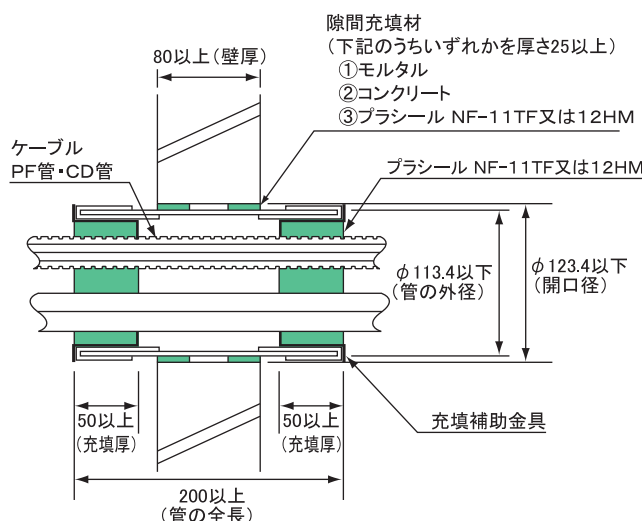
プラシールNF-11TF又は12HMをケーブル間や合成樹脂製可とう電線管周囲等に隙間が出来ないように十分に注意しながら押圧充填する。 充填圧の不足や隙間がないか確認し、不備がある場合は補充する。

3 耐火パテの充填②・仕上げ



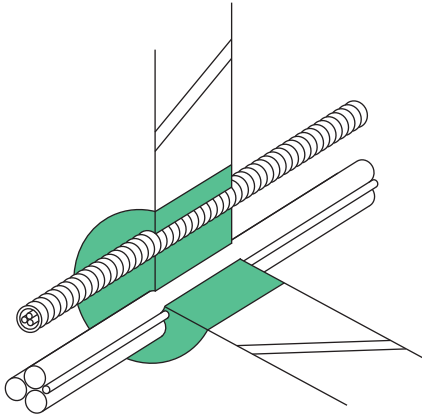
反対側も同様に施工し、仕上げる。

標準施工図



開口径	充填厚	占積率	ケーブル	合成樹脂製可とう電線管
φ 210mm以下	100mm以上	42.6%以下	325mm <sup>2</sup> 以下 外径φ 66mm以下	PF-36、CD-42以下 合計4本以下

完成図 (丸穴仕様)



■特徴

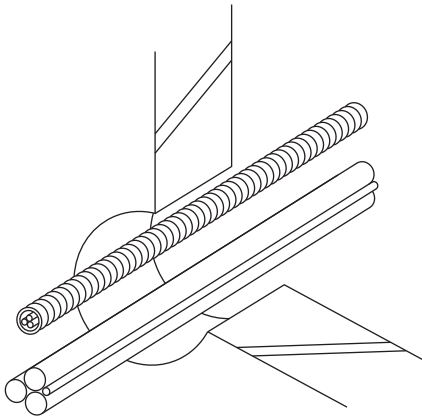
- PF管およびCD管とケーブルの同時貫通が可能

■施工条件

- 壁の厚さは100mm以上
- ALG構造もしくはコンクリート構造に適用

※プラシールNF-11TFを高湿度環境となるおそれのある箇所で、ご使用される際はナイコートSB-61等でコーティングを施して下さい。

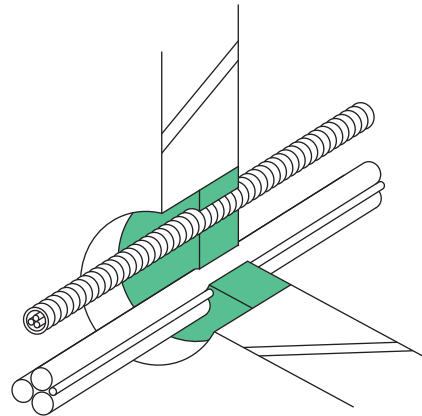
1



施工箇所が認定条件に適合する範囲内であることを確認する。

2

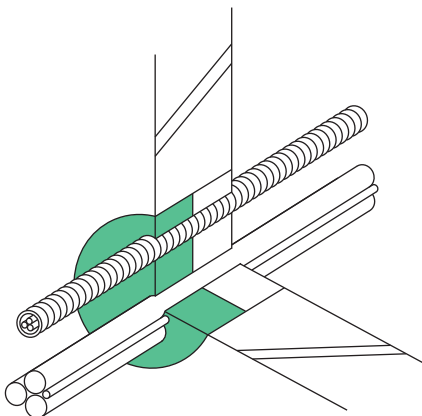
耐火パテの充填①



プラシールNF-11TF又は12HMをケーブル間や合成樹脂製可とう電線管周囲等に隙間が出来ないように十分に注意しながら押圧充填する。

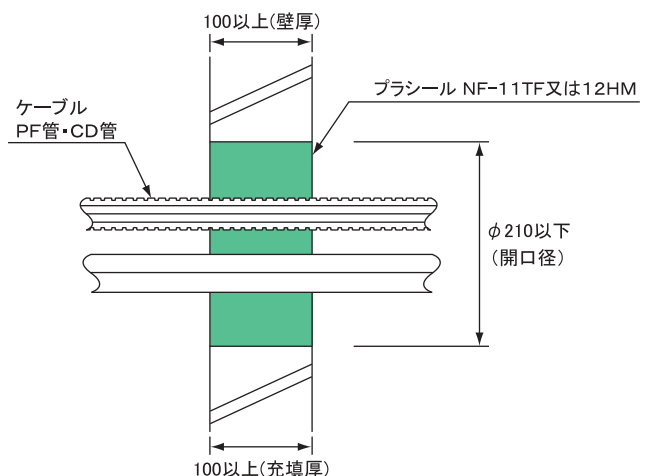
3

耐火パテの充填②・仕上げ



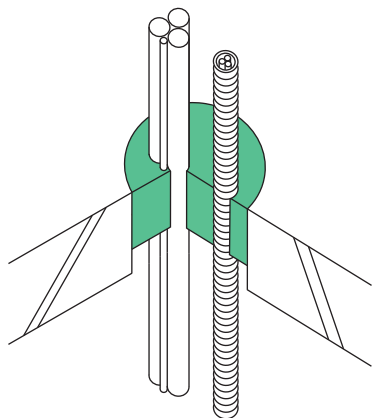
厚さ100mm以上充填する。  
 不足や隙間が無い確認し、不備がある場合は補充する。

標準施工図



開口径	充填厚	占積率	ケーブル	合成樹脂製可とう電線管
φ 210mm以下	70mm以上	42.6%以下	325mm <sup>2</sup> 以下 外径φ 66mm以下	PF-36、CD-42以下 合計4本以下

完成図 (丸穴仕様)



■特徴

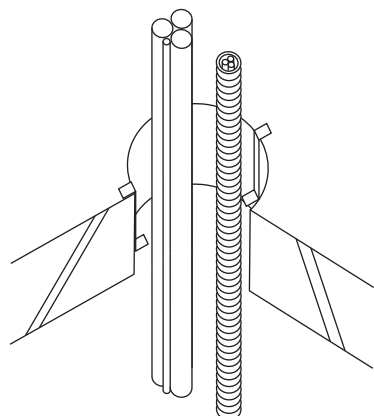
- PF管およびCD管とケーブルの同時貫通が可能

■施工条件

- 床の厚さは100mm以上
- ALC構造もしくはコンクリート構造に適用
- 充填補助金具はC-7H、CS-7H、FA-7Hのうちいずれかを使用

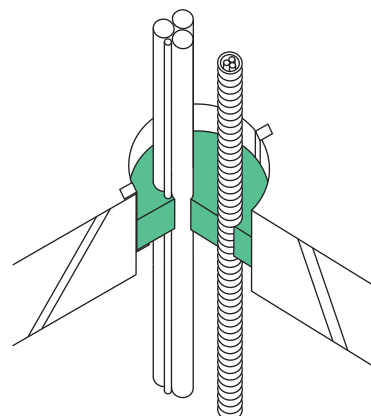
※プラシールNF-11TFを高湿度環境となるおそれのある箇所で、ご使用される際はナイコートSB-61等でコーティングを施して下さい。

1 充填補助金具の設置



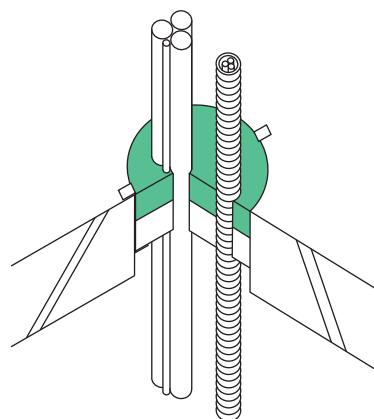
床上から開口部内に充填補助金具を設置する。

2 耐火パテの充填①



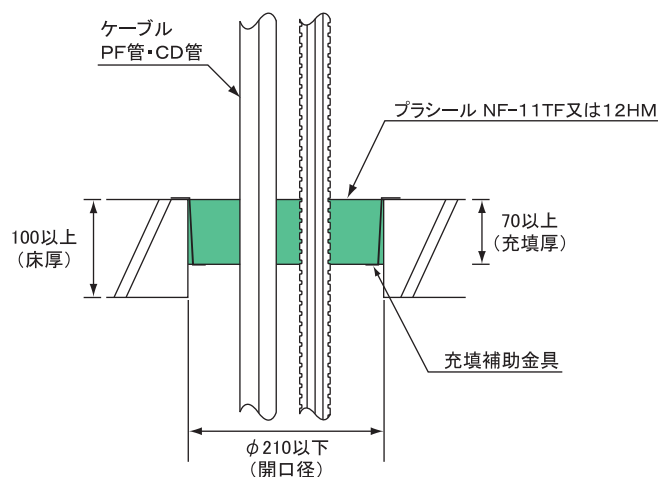
プラシールNF-11TF又は12HMをケーブル間や合成樹脂製可とう電線管周囲等に隙間が出来ないように十分に注意しながら押圧充填する。

3 耐火パテの充填②・仕上げ



充填厚の不足や隙間がないか確認し、不備がある場合は補充する。

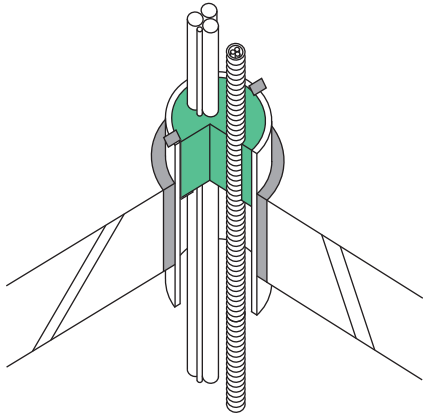
標準施工図





鋼製電線管外径	充填厚	占積率	ケーブル	合成樹脂製可とう電線管
φ 113.4mm以下	70mm以上	33.4%以下	200mm <sup>2</sup> 以下 外径 φ 55mm以下	PF-28、CD-36以下 合計1本以下

完成図 (鋼製電線管仕様)



■特徴

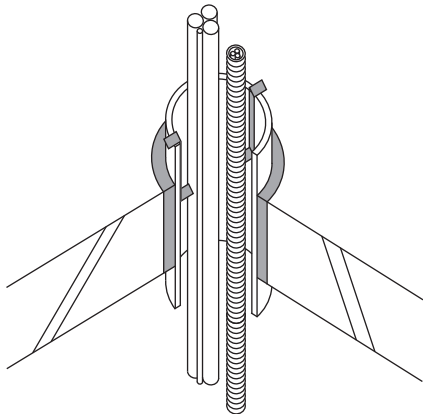
- PF管およびCD管とケーブルの同時貫通が可能
- 床上からの片側工法

■施工条件

- 床の厚さは100mm以上
- ALC構造もしくはコンクリート構造に適用
- 鋼製電線管は全長200mm以上
- 開口部に対する鋼製電線管の占積率は57.1%以下
- 開口部と鋼製電線管の隙間はモルタル、コンクリートのうち、いずれかを充填
- 充填補助金具はC-7H、CS-7H、FA-7Hのうちいずれかを使用

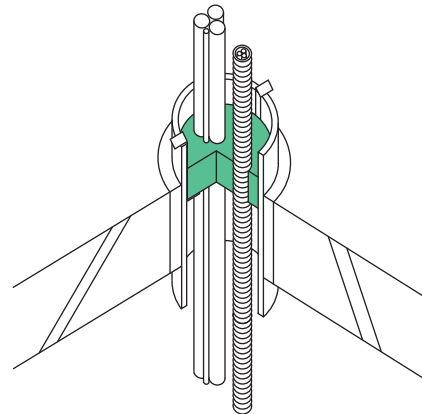
※プラシールNF-11TFを高湿度環境となるおそれのある箇所、ご使用される際はナイコートSB-61等でコーティングを施して下さい。

1 隙間処理および充填補助金具の設置



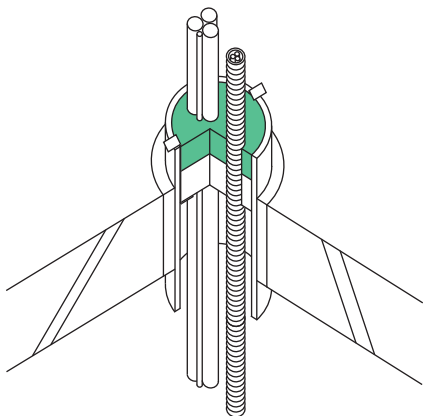
開口部と鋼製電線管の隙間にモルタル、コンクリートのうち、いずれかを充填する。  
床上から鋼製電線管内に充填補助金具を設置する。

2 耐火パテの充填①



プラシールNF-11TF又は12HMをケーブル間や合成樹脂製可とう電線管周囲等に隙間が出来ないように十分に注意しながら押圧充填する。

3 耐火パテの充填②・仕上げ



厚さ70mm以上充填する。  
不足や隙間が無いか確認し、不備がある場合は補充する。

標準施工図

